

# チャノキイロアザミウマ情報第1号

平成28年5月2日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 1 発生ピークの予測

有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月12日から18日です（表1）。本年は、4月の気温が前年より高かったため、チャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピークは、豊田を除き前年より1日から5日早いと予測します。

また、5月前半の気温も高く推移することが見込まれており、平年に比べ日平均気温が1℃高く推移した場合、発生ピークは現時点の予測日より1日から2日早まります。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/18	5/18	5/13	5/12	5/17	5/18	5/13	5/14	5/17	5/15	6/11
(前年)	5/19	5/19	5/15	5/16	5/17	5/19	5/17	5/19	5/21	5/18	6/4
前年差	1日早	1日早	2日早	4日早	±0	1日早	4日早	5日早	4日早	3日早	7日遅
第2世代	6/15	6/17	6/10	6/8	6/16	6/16	6/12	6/12	6/16	6/14	7/10

各地のアメダス平均気温から予測。

5月1日までは実測値を、それ以降は平年値（大府、豊橋は前年値）を用いて計算。

前年の第1世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

## 2 防除

ブドウでは、例年5月上旬から成虫の飛来があり（図）、5月下旬から6月上旬に幼虫の発生が見られます。

カキでは、開花期頃から成虫の飛来が多くなります。

チャノキイロアザミウマの防除では、成虫発生ピーク時の農薬散布が、最も防除効果が高いとされています。

例年発生の多いほ場では、表1の第1世代成虫の発生ピーク時期と5月前半の気温推移を参考に表2の薬剤などで適期に防除しましょう。

また、防風用に植えているマキなどは、本種の発生源になりますので、発生に注意しましょう。

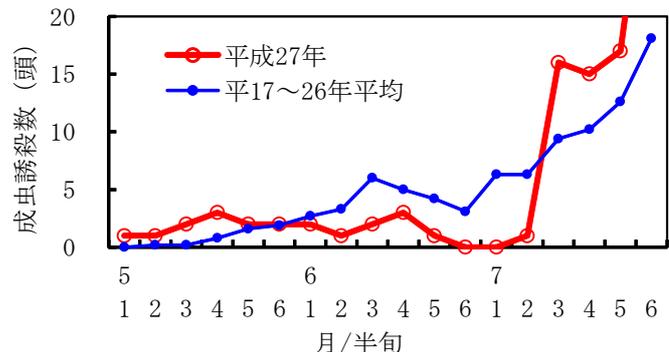


図 粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの成虫誘殺数（東浦町、ブドウ）

表2 チャノキイロアザミウマの主要な薬剤

作物	薬剤名
ブドウ	コルト顆粒水和剤
	アルバリン／スタークル顆粒水溶剤
	モスピラン顆粒水溶剤
カキ	スプラサイド水和剤
	アルバリン／スタークル顆粒水溶剤

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。